

教えて！ ドクター Q&A

(株)宣通 (052) 979-1600 広告

Q 健診でHDLコレステロールが高めの数値がでてしまつたのですが、揚げ物が大好きで1日に1回は必ず食べてしまいます。野菜や魚類は以前よりたくさん摂り、バランスよい食事を心掛けていますが、今後高脂血症になるのではないかと不安です。



A HDLコレステロールは、LDLコレステロールが悪玉コレステロールと呼ばれているのに対し、善玉コレステロールと呼ばれています。HDLコレステロールが動脈硬化巣などの末梢組織に蓄積した余剰のコレステロールを抜き出し、肝臓へ運んで処理する経路はコレステロール逆転送系と呼ばれ、動脈硬化防御機構として重要であります。HDLコレステロールが低いほど動脈硬化性疾患のリスクを高め、高いほどリスクが低くなります。したがつて、HDLコレステロールが高いのは悪いことではなく、むしろ

いいことです。HDLコレステロールの負の危険因子としての役割はあらゆるLDLコレステロールの群で認められるのに対し、低HDLコレステロールや高HDLコレステロール群ではLDLコレステロール上昇と動脈硬化性疾患発症率との関連が明白でなくなるなど、HDLコレステロールはむしろLDLコレステロールより強い支配因子であることが示されてきました。このように低HDLコレステロールは高LDLコレステロールと同様、またはそれ以上に注目すべき危険因子と言えます。LDLコレステロールよりHDLコレステロールの管理がより多くの動脈硬化性疾患の発症を予防できる可能性が高いと考えられます。HDLコレステロールを増やす薬剤は色々考えられます。ですが、その効果は弱く、最も効果があるのは運動療法ときています。



院長 早瀬 修平
(はやせ希望クリニック)

名古屋大学大学院医学研究科修了。医学博士。米国ニューヨーク市Francis Delafield Hospital、Harlem Hospital Center外科レジデント。ミネソタ州Mayo Clinic胸部心臓血管外科留学。金沢医科大学心臓血管外科講師、名古屋大学胸部外科助手、名古屋第一赤十字病院胸部外科部長。1997年4月より現職。

良いことです。HDLコレステロールの負の危険因子としての役割はあらゆるLDLコレステロールレベルの群で認められるのに対し、低HDLコレステロールや高HDLコレステロール群ではLDLコレステロール上昇と動脈硬化性疾患発症率との関連が明白でなくなるなど、HDLコレステロールはむしろLDLコレステロールより強い支配因子であること

が示されてきました。このように低HDLコレステロールは高LDLコレステロールと同様、またはそれ以上に注目すべき危険因子と言えます。LDLコレステロールよりHDLコレステロールの管理がより多くの動脈硬化性疾患の発症を予防できる可能性が高いと考えられます。HDLコレステロールを増やす薬剤は色々考えられます。ですが、その効果は弱く、最も効果があるのは運動療法ときています。